

2023.09.04(月)
武蔵野市第2回学校教育計画策定審議会

特別支援教育・不登校など 多様性のある児童生徒への 支援

橋本創一(東京学芸大学)

障害・疾患の周辺児の拡大

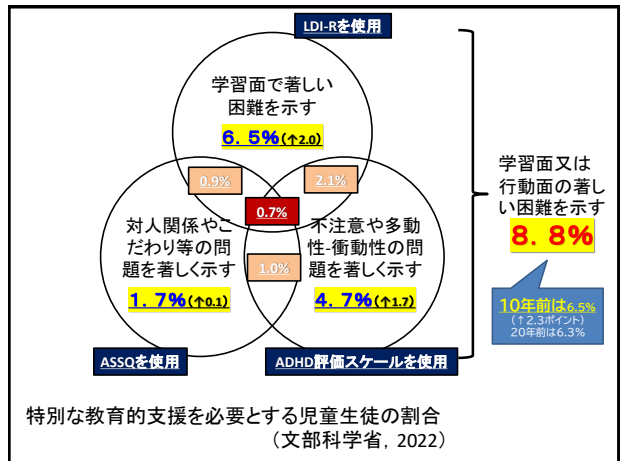
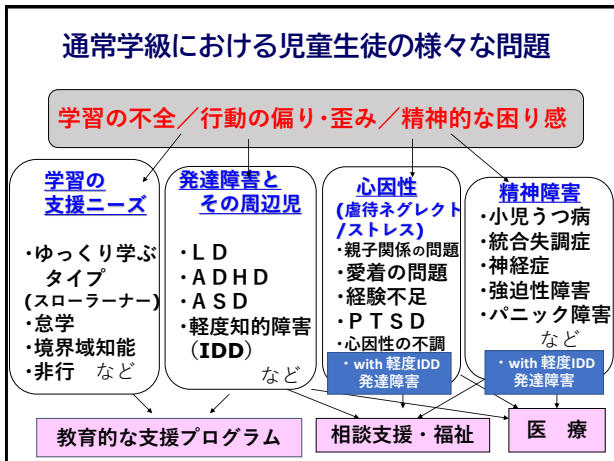
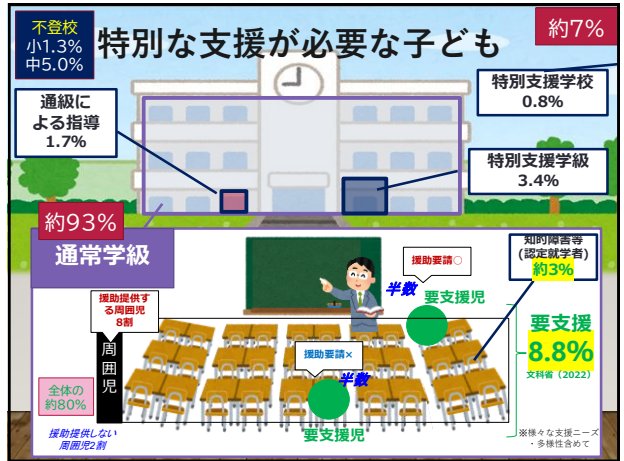
個性 ←→ 障害・疾患

児童生徒が示す状態が「個性」か「障害」か判別ができないという声を聴くことが多い.....

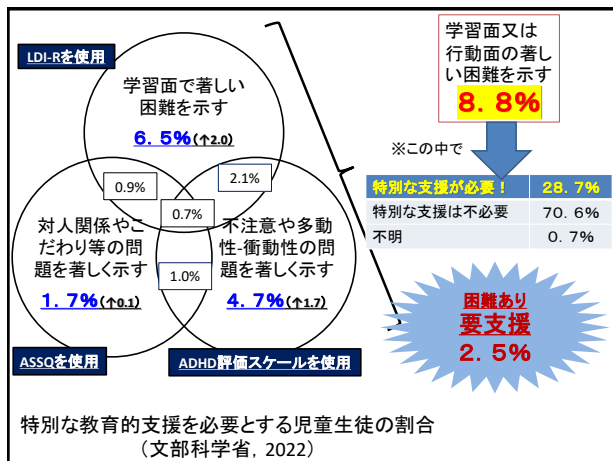
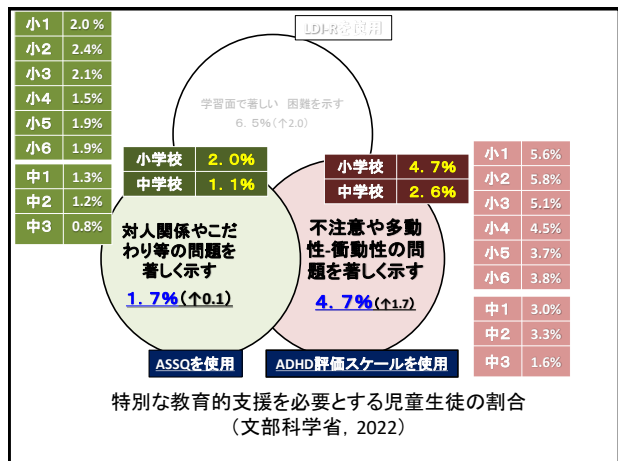
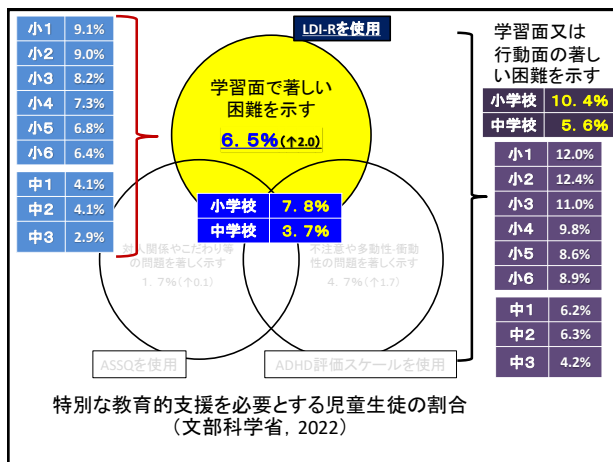
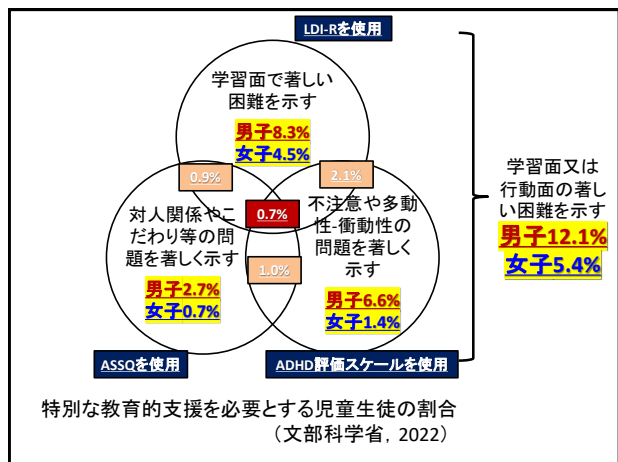
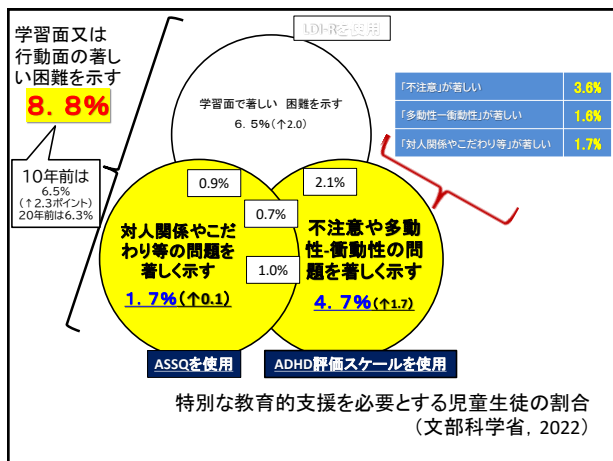
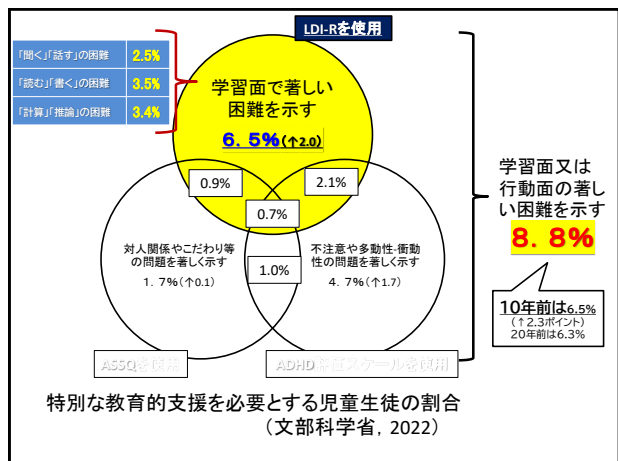
(障害とは「社会的に支援が必要な状態. 社会が支援の義務を負う」とされてきたが・・・『発達障害』概念が登場して、その捉え方は変わってきている・・・『境界域』の増加も・・・)

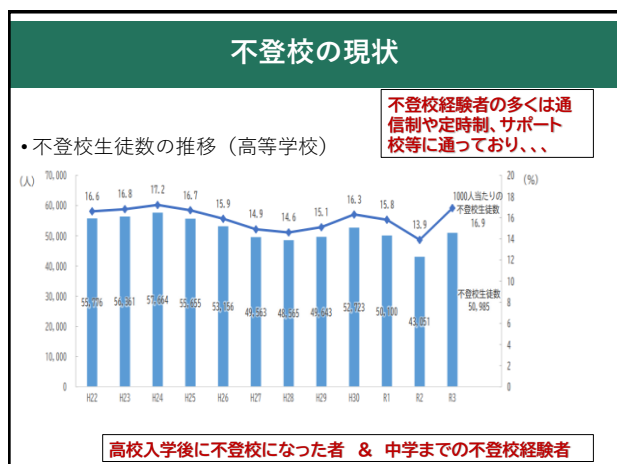
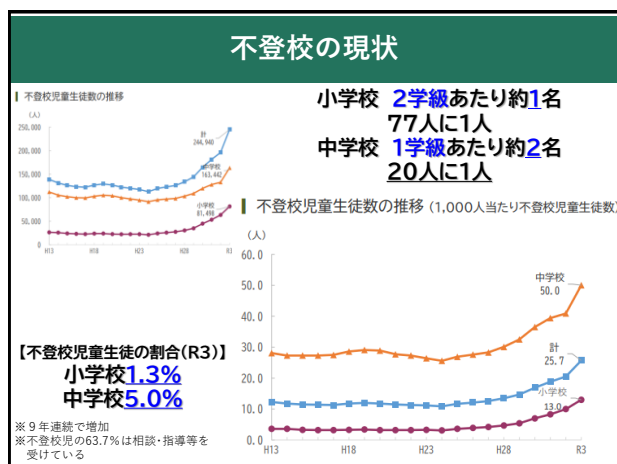
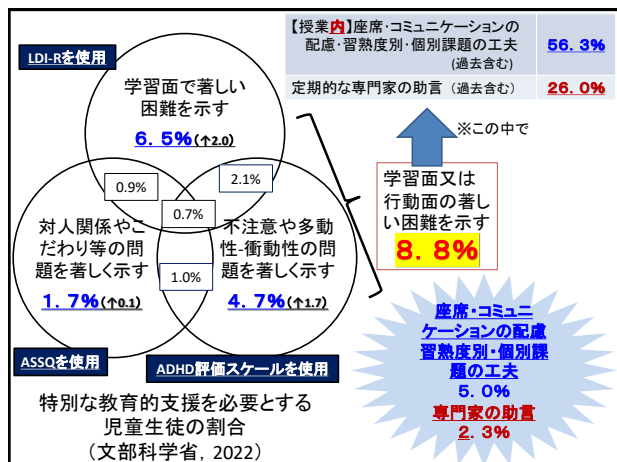
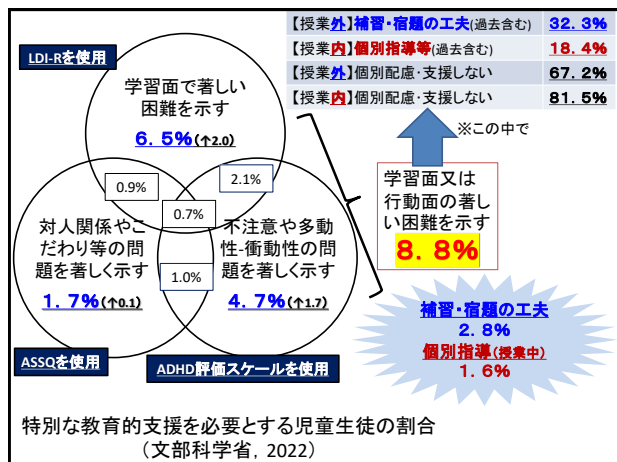
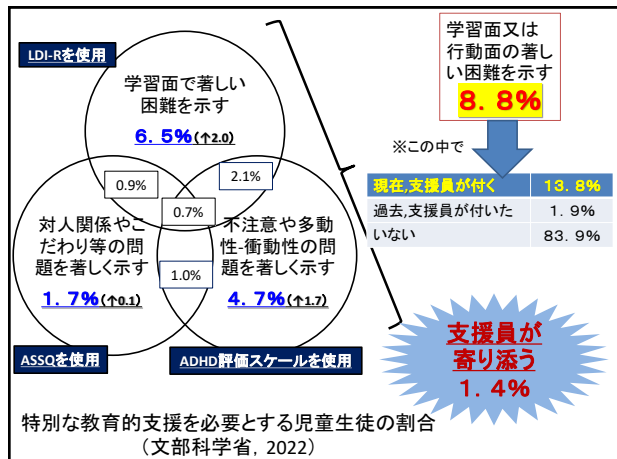
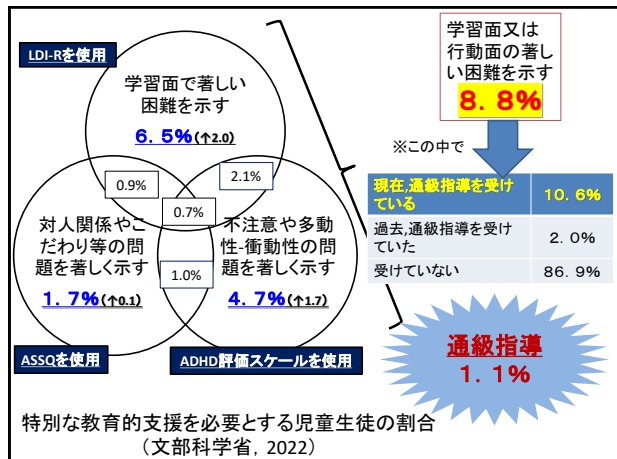
日本における特殊教育から 特別支援教育・インクルーシブ教育の制度化

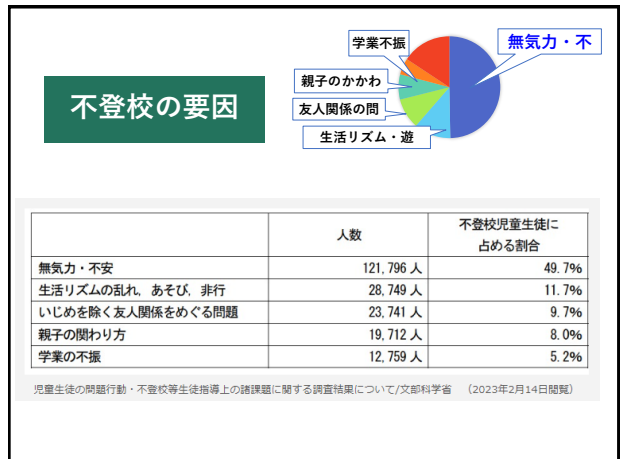
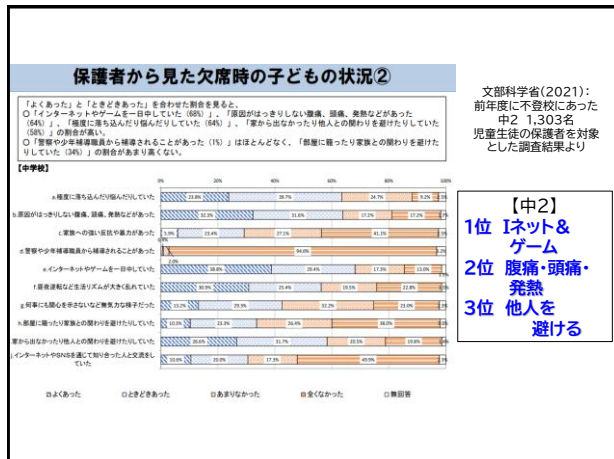
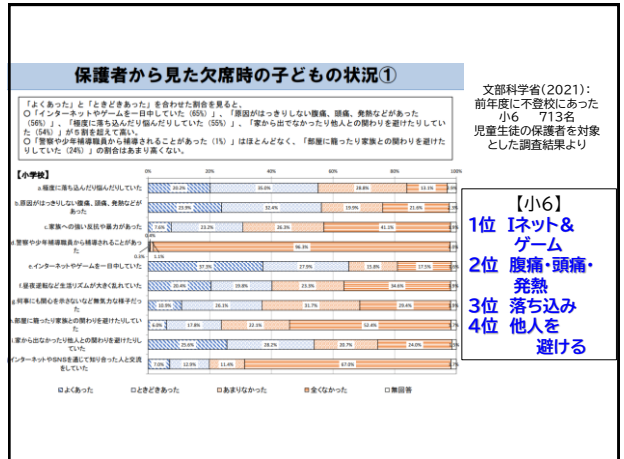
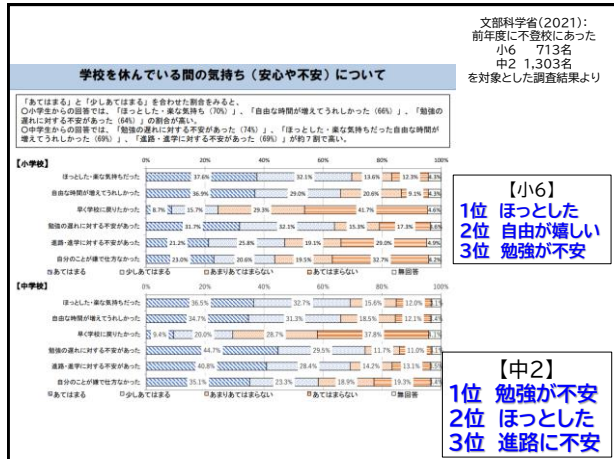
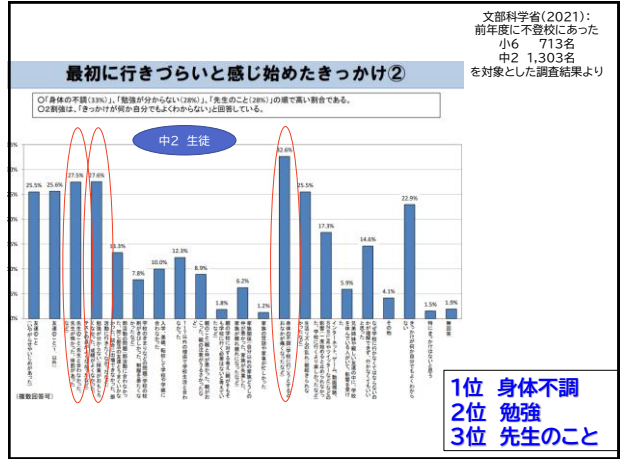
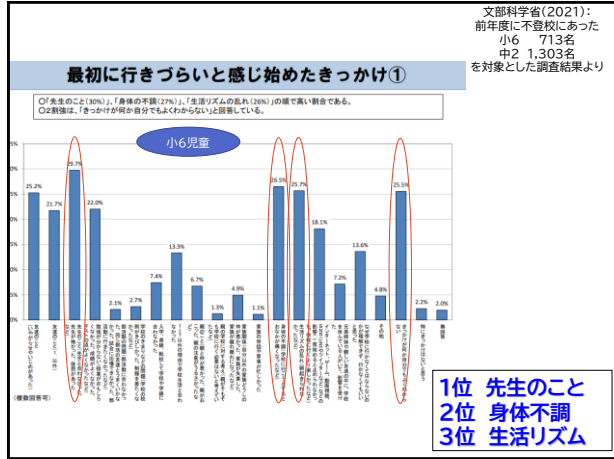
	特殊教育 (1947/79年～2007年)	特別支援教育 (2007年～)	インクルーシブ教育 (2014年～)
対象	障害児者	障害の有無によらず特別な教育的支援	多様な支援ニーズ
条件	障害診断が必要	診断は必ずしも必要ない	診断は必要ない
教育の場	盲・聾・養護学校, 小中学校内の特殊学級. (各障害/各学校に応じた支援を提供)	通常の学級, 特別支援学級, 特別支援学校のいずれかを選択. (どの場でも支援を提供)	基本的には, 通常の学級. 本人の選択により特別支援学級・支援学校. (どの場でも支援を提供)
目的	障害の克服	通常教育と同等	通常教育と同等
分離・混合・包含	分離教育	分離・混合・包含教育 (交流・共同学習の推進)	包含教育 (一統の教育が基本) ※現状は分離・混合が継続



特別支援教育・不登校など多様性のある児童生徒への支援







2020年のNEWSですが

不登校の要因

一方で...

不登校の原因 比べてみると...

NHK LINEアンケート	
①「先生との関係」	23%
②「いじめを受けた」	21%
③「決まりや校則になじめない」	21%

(不登校中学生378人 複数回答)

文科省調査	
①「教職員との関係」	2.2%
②「いじめ」	0.4%
③「学校の決まりなど」	3.5%

(平成20年度 複数回答)

・NHK「不登校、その先を考えてほしい」 https://www.nhk.or.jp/d-navi/2020/article_29.html

不登校の要因

・不登校は、学校、家庭、本人などに係る**多くの要因**が複合して起きているもの。

家庭や学校などのさまざまな要因と、本人における要因が重なりあって、不登校という現象として現れる

近年の不登校支援のあり方

(文部科学省, 2015)

- ▶ チーム支援
- ✓ 不登校などの生徒指導等に関わる問題が複雑多様化
- ✓ 学校や教員だけでは十分に解決できない課題の増加

近年の不登校支援のあり方

▶ ニーズに応じた不登校支援の階層性

外国にルーツのある児童生徒への支援

在留外国人数の推移

国籍・地域別 在留外国人数の推移

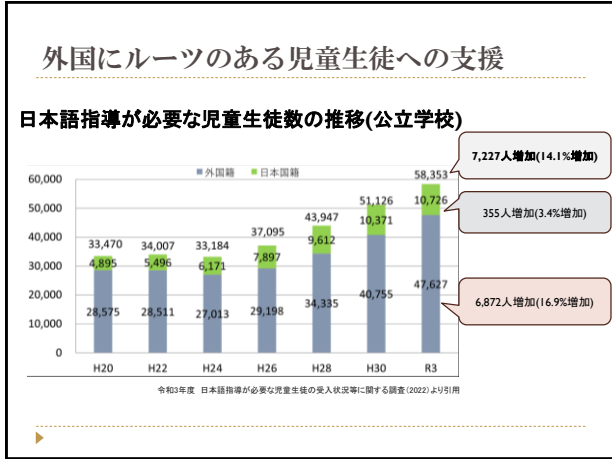
法務省より引用

日本経済新聞電子版 2023年3月24日より引用

外国にルーツのある児童生徒への支援

帰化許可者数の推移

法務省(2023)「帰化許可申請者数、帰化許可者数及び帰化不許可者数の推移」を参考に作成



外国にルーツのある児童生徒への支援

中退率・進学率と就職

- 日本語指導が必要な高校生等(2022年現在)...
- 中退率(5.5%) ※全高校生等1.0%
- 進学率(大学等)51.8% ※全高校生等73.4%
- 就職者における非正規就職率39.0% ※全高校生等3.3%

文化

- すべてはいけないもの(イスラム教...豚、アルコールなど)
- クリスマス、初詣など季節行事

言語

- 日本語指導が必要な児童生徒数は年々増加している
- 生活言語と学習言語
- ダブルリミテッド...言語力の限界
- ヤングケアラー...家族への通訳

